

1 多様なアプローチ（きっかけづくり）による里地里山の再評価と協働による取組の進展

⑥団塊世代等のボランティア活動の受け皿として、里地里山の保全再生活動が期待されている例

神奈川：都市住民による里山ボランティア団体の活発な活動

秦野市内には、市民が主導する里山保全団体が 24 団体ある。丹沢ドン会をはじめこれらの団体では、水田の管理、雑木林の管理、畑作業を核とした作業の指導と農的な暮らしの魅力を、そば打ち、収穫祭、注連縄づくり、自然とのふれあいやその保全活動を通じて、楽しく汗をかきながら伝えている。これらの多彩な活動が、秦野市に移住してきた都市的な生活を送る住民や近隣都市住民にとって、里地里山が、遠くから眺めていた関心の対象から、「参加する」対象へと変わる、里地里山保全に関わるきっかけとなっている。市内の各地域にこういった団体があり、保全活動の仲間を確実に増やしている。近年では、団塊の世代が定年を迎えて地域へ入る入り口ともなっており、自然塾丹沢ドン会では、秦野市との共催で「団塊サミット」を実施しており（2006年12月に3回目を実施）、「緑と農の元気づくり」として団塊世代の「里地里山デビュー」を後押ししている。

また、秦野市内には市民農園も多いが、秦野の田園風景や山並みのどかな自然を求めて、車で1時間圏内の都市部からやってくる利用者が大変多く、農業委員会と JA 秦野が中心となり「はだの都市農業支援センター」も設立された。



里山整備（写真：丹沢ドン会）



多様な参加者（写真：丹沢ドン会）



団塊サミット記事